

日本映画大学シネマ列伝

弦巻裕 / さのてつろう / 熊澤誓人

VOL.4

[録音技師/撮影監督/映画監督]



誰も知らない ©2004-2007「誰も知らない」製作委員会



西の魔女が死んだ ©2008「西の魔女が死んだ」製作委員会



アレクセイと泉 ©ホレホレタイムズ社



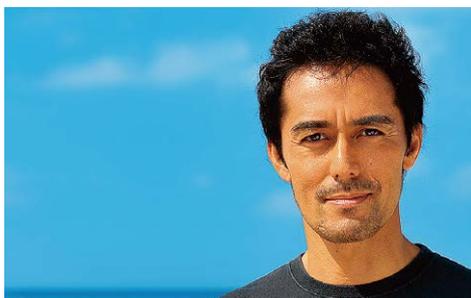
[Focus] ©1996西友/エース・ピクチャーズ



デビルマン ©2004「デビルマン」製作委員会



3.11後を生きる



天国からのエール ©2011「天国からのエール」製作委員会



ラオス 竜の奇跡 ©ジャパン・ラオス・クリエイティブ・パートナーズ



画像:「未来選択」

プログラム	4/22 [土]	12:30 3.11後を生きる	4/25 [火]	12:30 [Focus]
		14:30 [Focus]		14:20 天国からのエール
		16:20 ラオス 竜の奇跡 (プレミア上映)		16:55 西の魔女が死んだ
	4/23 [日]	19:00 トークイベント: 「映画大学スペシャルプログラム」+ 「日韓学生共同制作第4弾『腰抜け』」プレミア上映 ※入場無料 (当日9:00より入場整理券配布)	4/26 [水]	12:30 アレクセイと泉
		12:30 誰も知らない	4/27 [木]	14:50 西の魔女が死んだ
		15:30 しんゆり映画祭ジュニア映画制作 ワークショップ作品上映会 ※入場無料		17:25 デビルマン
17:30 アレクセイと泉	4/28 [金]	12:30 誰も知らない		
			15:30 デビルマン	
			18:05 3.11後を生きる	
			17:50 天国からのエール	

[会期] 4/22 [土] ▶ 4/28 [金] ※4/24休映

[会場] 川崎市アートセンター

各回入替制1000円均一

アルテリオシネマ会員800円・会員ポイント対象外
日本映画大学生は学生証提示で800円
「ラオス 竜の奇跡」は特別料金1300円均一

日本映画大学は2011年4月、日本で唯一の映画の単科大学として川崎市麻生区に誕生しました。故・今村昌平監督が横浜放送映画専門学院を設立したのが1975年。以来7000人を超える映画人を輩出してきた〈映画の学校〉は、大学化によって映画教育の次なるステージに入りました。《アルテリッカしんゆり》の一環として毎年開催している〈日本映画大学シネマ列伝〉は、大学に籍を置くプロの映画人たちを地域に広く紹介する新シリーズです。第4回の今回は、〈録音技師／撮影監督／映画監督〉としてそれぞれ活躍し、日本映画大学で教壇に立つ三人の現役映画人の代表作品8本+しんゆり映画祭でおなじみジュニア映画制作ワークショップ作品の上映とともに、初日にはトークショーを併催します。ご期待下さい！

弦巻裕

TSURUMAKI Yutaka

日本映画大学教授・録音技師

録音技師。法政大学映画研究会所属時に助監督を務め、映画づくりの現場に参加。卒業後、東京テレビセンター勤務を経て、フリーの録音技師として活躍。主な作品に『絵の中のぼくの村』(東陽一監督・1996)、『花子』(佐藤真監督・2001)、『ゲゲゲの鬼太郎』(本木克英監督・2007)、『西の魔女が死んだ』(長崎俊一監督・2008)、『奇跡』(是枝裕和監督・2011)、『エンディングノート』(砂田麻美監督・2011)など。『誰も知らない』(是枝裕和監督・2004)で毎日映画コンクール録音賞、2013年『そして父になる』(是枝裕和監督)で日本アカデミー賞優秀録音賞を受賞。最新作『星籠の海』(和泉聖治監督・2016)

[日本映画大学での担当科目] 音響論／映画制作基礎演習／録音専門基礎演習／技術合同専門演習／録音専門演習／合同制作A／卒業制作 など



誰も知らない

[2004年/カラー/ビスタ/2h21/35mm]

監督・脚本：是枝裕和／録音：弦巻裕／出演：柳楽優弥、YOU、北浦愛、清水萌々子、木村飛影

母親に置き去りにされた4人の子供たちが、アパートの一室で人知れず生活していく。主演の当時14歳の柳楽優弥が、カンヌ映画祭で史上最年少の男優賞を受賞した、是枝裕和の代表作。キネマ旬報日本映画ベストテン1位。

西の魔女が死んだ

[2008年/カラー/ビスタ/1h55/35mm]

監督：長崎俊一／原作：梨木香歩／脚本：矢沢由美、長崎俊一／録音：弦巻裕／出演：サチ・パーカー、高橋真悠、りょう、高橋克実、大森南朋

中学生になりたてのころ、不登校になった少女が身を寄せたのはイギリス人の祖母の家だった。祖母のもとでナチュラルな生き方を学んだ日々の回想を綴る感動作。『8月のクリスマス』の実力派・長崎俊一監督が映画化。

アレクセイと泉

[2002年/カラー/ビスタ/1h44/DCP]

監督：本橋成一／録音：弦巻裕／音楽：坂本龍一

1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故で被災したベラルーシの小さな村。強制移住地区に指定されながら、今も村に暮らす人々の生活を支えるのは、唯一の若者アレクセイと、こんこんと清涼な水がわき続ける泉である。

さのてつろう

SANO Tetsuro

日本映画大学教授・撮影監督

撮影監督。三船プロ・中村プロを経てフリーの撮影助手になる。主に林淳一郎氏に師事。平行してビデオのカメラマンとしてもCM・VP・プロモ・AVなど撮影。34歳でメジャー劇映画デビュー。ダイビングインストラクターの経験から水面・水中撮影をコーディネートし撮影する。1996年『FOCUS』(井坂聡監督)で日本映画テレビ技術協会特別賞受賞。他、撮影作品に『デビルマン』(那須博之監督・2004)、『海猿』(羽住英一郎監督・2004/2005)、『あなたへ』(別班撮影：降旗康男監督・2012)、『チャイコイ』(伊藤秀裕監督・2013)、『GoGoイケメン5』(福山桜子監督・2013)など。

[日本映画大学での担当科目] 映画制作基礎演習／ビデオ・デジタル技術基礎演習／撮影照明専門基礎演習／技術合同専門演習／卒業制作 など



[Focus]

[1996年/カラー/ビスタ/1h13/35mm]

監督・編集：井坂聡／脚本：新和男／撮影・照明：佐野哲郎／出演：浅野忠信、白井晃、海野けい子

テレビクルーが、盗聴マニアの青年の取材を進めるうち、次第に彼の支配下に置かれてしまう。テレビカメラの主観映像で構成していく、斬新な演出が話題になった作品。不気味な青年を演じた浅野忠信の初期の代表作。

デビルマン

[2004年/カラー/ビスタ/1h56/35mm]

監督：那須博之／脚本：那須真知子／撮影：さのてつろう／出演：伊崎央登、伊崎右典、染谷将太、宇崎竜童、阿木耀子

永井豪の傑作漫画を、「ビー・バップ・ハイスクール」シリーズの監督・脚本コンビで実写映画化。親友の父が蘇らせた邪悪なデーモン一族に、デビルマンとされながら、彼らと戦う高校生不動明を、当時のVFXを駆使して描く。

3.11後を生きる

[2013年/カラー/ビスタ/1h25/Blu-ray]

監督：中田秀夫／撮影：さのてつろう

2011年3月11日の東日本大震災で、津波被害にあった人々のその後を取材したドキュメンタリー。最愛の家族を失った喪失感と苦悩のなかで、新たな生活に向き合う人々の姿を捉えていく。原発事故だけではない震災の実像。

熊澤誓人

KUMAZAWA Makoto

日本映画大学准教授・映画監督

映画監督。東宝株式会社入社後、出向先の東宝映画にて市川崑監督、犬童一心監督など数々の作品の助監督を務める。2011年『天国からのエール』で劇場映画監督デビュー。他監督作品にテレビドラマ『ここはグリーンウッド』(2008)がある。2009年文化庁新人監督育成プロジェクトVIPOに参加。第33回城戸賞では執筆した脚本『カメレオン☆アミー』が最終選考に残る。2012年よりしんゆり映画祭ジュニア映画制作ワークショップの指導講師を担当。川崎市麻生区と共催の子ども映画ワークショップも担当しており、市内の小・中学生に指導している。

[日本映画大学での担当科目] 映画制作基礎演習／演出専門基礎講義／合同制作A／卒業制作／子ども映画教育演習 など



天国からのエール

[2011年/カラー/ビスタ/1h54/35mm]

監督：熊澤誓人／脚本：尾崎将也、うえのきみこ／出演：阿部寛、野村周平、ミムラ、桜庭ななみ

沖縄で小さな弁当屋を営む男が、常連の高校生たちのために、音楽スタジオを作ってしまう。使用料はタダだが、挨拶すること、赤点をとらないことが条件で…。複数のミュージシャンが巣立った実話をもとにした感動作。

ラオス 竜の奇跡 (プレミア上映・特別料金1300円均一)

[2017年/日本、ラオス/カラー/シネスコ/1h52/DCP]

監督・脚本：熊澤誓人／共同脚本：守口悠介／出演：井上雄太、ティガー・シテサイ

日本ラオス国交60周年記念映画。1960年のラオスへと迷い込んでしまった娘と、ダム建築調査に訪れた日本人が出会い、辺鄙な農村で暖かな村人たちとの共同生活が始まる。6月の全国公開を控えたプレミア上映です！(特別料金)

しんゆり映画祭ジュニア映画制作ワークショップ作品上映会

熊澤監督が心血を注いでいる映画制作ワークショップの3作品を上映します。(トークあり、入場無料)

【理想の代償】 [2012年18分]

【My Good Friends】 [2013年18分]

【未来選択】 [2014年23分]

※15年キネコ国際映画祭ティーンズ・フィルム・コンペティション部門グランプリ

4/22 (土) 19:00からトークイベント
「映画大学スペシャルプログラム」+「日韓学生共同制作第4弾『腰抜け』プレミア上映」(入場無料)

川崎市アートセンター

小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺6-7-1

Tel.044-955-0107

http://kac-cinema.jp

